

日本共産党区議会議員  
Japanese Communist Party

# 安藤たい作

区政報告 ニュース 第22号

## 日本共産党の沢田英次区議が一般質問

# 危機的状況招いた競争教育でなく 今こそ「学びあい」の教育を



気分転換に先輩区議数人と区役所屋上庭園にのぼりました。大崎駅方面に目をやると、開発ラッシュである大崎ゲートシティすら目立たなくなるほどの風景になっていてビックリ。ここに巨額の税金も投入されています。いったいこれは誰のための「まちづくり」なのか・・・。



漫画：安藤たい作

→次号に続きます

2月23日、共産党の沢田英次区議が一般質問を行い、品川区に対し「競争教育をやめ世界に広がる『学びあい』の教育を」と迫りました。

**危機的状況になりつつある品川の教育**

品川区ではこの7年、学校選択制導入、学力テストの結果公表、小中一貫校建設、学力上位の子と下位の子をグループ分けする習熟度別教育の導入など、学校と子どもを徹底して「競争原理」に追い込む教育を推進してきました。この方向はまさに改悪教育基本法の元、これから国が進めようとしている教育の「先取り」そのものです。

その結果はどうでしょう。選択制により地域崩壊を危惧する声が続つものPTAや町会関係者から聞こえてくるようになりました。区議団が実施した区政アンケートでも学校選択制反対は41・4%と、賛成の28・3%を大きく上回っています。(881人がこの項目に回答。2/28現在)昨年11月には区教委宛に二通の自殺の予告の手紙が届くなど、子どもにかかるストレスも心配されます。先月には新学期まで2ヶ月を切るというこの時期に荏原二中の統廃合計画が突然発表されるといふ異常事態。まさに品川の教育の現状は「抜き差しならない危機的な状況」(沢田区議)です。

**区教委「競争が有効」の根拠示せず**

沢田区議の「競争が教育にとって有効だとする根拠・事例を紹介されたい」との質問・再質問に對しても、とうとう区は最後まで事例を示せませんでした。教育学的な根拠もなく、現実に様々な矛盾が噴出する中で、品川を「改革」という名のもとで競争教育の実験の場にするには、断じて許される事ではありません。

一方、沢田区議は私(安藤)と先日視察した茅ヶ崎市の浜之郷小を紹介し「競争でなく学び合いの教育を」と対案を示しました。詳しくは次号で紹介したいと思います。

**安藤たい作プロフィール** '74年 宮城県仙台市生まれ33歳。'97年 国立宮城教育大卒。'98年 漫画家を志し上京、漫画家アシスタント。'02年 青年誌奨励賞受賞。大崎駅西口駐輪場改善運動に取り組む。4年の派遣労働経験を経て、'06年の品川区議会議員補欠選挙で初当選。趣味/漫画・イラストを描くこと、キャッチボール。大崎在住。

**安藤たい作ニュース** は、「品川区議会における政務調査費の交付に関する規定」で定める用途基準「広報・活動費」に基づき、政務調査費によって発行されています。